

2018年（平成30年） 11月30日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

11/15~11/21のNYMEX・WTIは、53.43~56.76ドルの範囲で大きく軟化して推移した。

11月22日は、感謝祭休日のため休場。

週末23日は、12月のOPEC総会等における減産に懐疑的な観測が広がるとともに米中貿易摩擦激化等世界的な景気減速への警戒感、ドル高による原油先物の先高感から、売り込まれ大幅反落、50ドル割れ目前、2017年10月9日以来1年1か月ぶりの安値を記録した。なお、21日発表のペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は885基(前週比3基減)と減少した。1月限終値は前営業日比4.21ドル安の50.42ドル。

週明け26日は、先週末の安値の反動による買い戻しが入り、反発した。ただ、先行きの供給過剰感も根強く上値は重かった。1月限終値は前週末比1.21ドル高の51.63ドル。

27日は、今月末の米中首脳会談における関税率凍結に悲観的なトランプ大統領の発言、ドル高進行に伴う割高感、米国の株安の影響、また、11月の産油量がサウジ1130万バレル・米国1170万バレルといずれも高水準となったとの報道から、小反落した。1月限終値は前日比0.07ドル安の51.56ドル。

28日は、EIA米国在庫週報で、原油は市場予想を上回る10週連続の積み増しとなり、中間留分も予想に反する積み増しになったことから続落し、約1年2ヶ月ぶりの安値を記録した。1月限終値は前日比1.27ドル安の50.29ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週62.30~66.20ドルの範囲で推移した。11月22

日62.70ドル、26日59.10ドル、27日59.10ドル、28日60.30ドルで推移した。

為替は、前週112.67~113.67円の範囲で推移した。11月22日113.09円、26日113.04円、27日113.51円、28日113.79円で推移した。

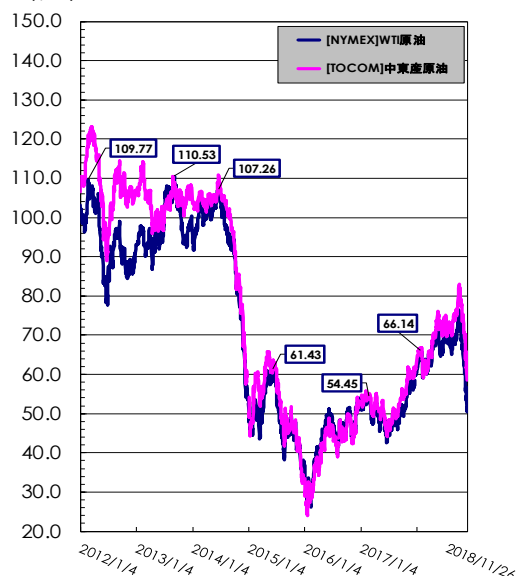
財務省が29日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、57.737円/klで、前旬比1,448円高、ドル建ては81.70ドルで前旬比2.11ドル高。為替レートは1ドル/112.34円だった。

主要元売会社の11月第4週に適用する卸価格は、ガソリンは3.0~4.5円の値下げ、軽油は全社3.0円の値下げ、灯油は3.0~3.5円の値下げに分かれた。原油価格は大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは大きく値下がりとなった。

そのような中で、11月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.0円の値下がり、軽油も同1.7円の値下がり、灯油も同22円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、5週連続の値下がりだった。この週(11月第3週)の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格はガソリンが1.0~3.0円の値下げ、軽油と灯油は1.0~2.0円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/18 ~ 11/24	3,649 ▲ 22	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.2 ▲ 0.6	▶ -
	原油在庫量 (千kl)	11/24	12,946 ▲ 675	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/26	58.53 ▼ -7.34	▼ -2.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/26	51.63 ▼ -5.13	▼ -6.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	81.70 ▲ 2.11	▲ 23.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	57,737 ▲ 1,448	▲ 16,487
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.34 ▲ 0.11	▲ 1.19
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/26	114.04 ▼ -0.31	▼ -1.38

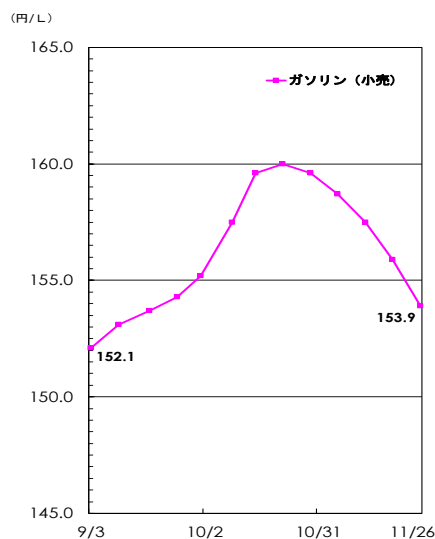
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/18 ~ 11/24	978 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	944 ▲ 11	▲ -	
	輸出	"	69 ▲ 60	▼ -	
	在庫	11/24	1,794 ▼ -35	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/20 ~ 11/26	63.0 ▼ -1.8	▲ 4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/20 ~ 11/26	55.0 ▼ -2.2	▼ -3.1
		(TOCOM/中部)	11/26	62.0 ▲ 2.2	▲ 3.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/26	153.9 ▼ -2.0	▲ 12.8	

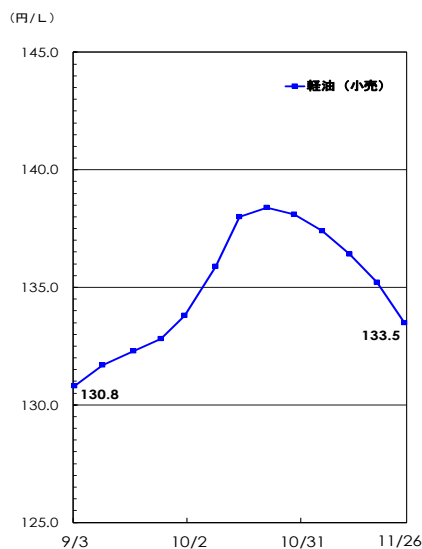
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

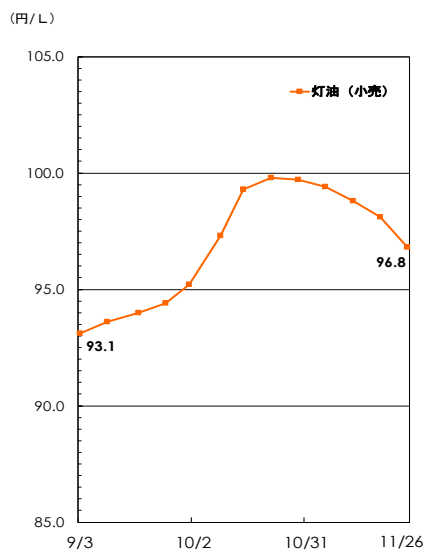
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/18 ~ 11/24	789 ▼ -47	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	557 ▼ -97	▼ -	
	輸出	"	59 ▼ -34	▼ -	
	在庫	11/24	1,744 ▲ 172	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/20 ~ 11/26	66.4 ▼ -2.5	▲ 7.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/20 ~ 11/26	66.6 ▼ -2.0	▲ 8.6
		(TOCOM/中部)	11/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/26	133.5 ▼ -1.7	▲ 14.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/18 ~ 11/24	344 ▲ 91	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	296 ▲ 95	▼ -	
	輸出	"	25 ▲ 25	▼ -	
	在庫	11/24	2,881 ▲ 24	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/20 ~ 11/26	65.1 ▼ -2.5	▲ 4.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/20 ~ 11/26	62.5 ▼ -1.7	▲ 3.4
		(TOCOM/中部)	11/26	65.0 ▼ -0.2	▲ 5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/26	96.8 ▼ -1.3	▲ 13.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月28日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)週報で、米国の原油在庫は前週比350万バレル増と市場予想(同80万バレル増)を上回り10週連続の積み増しとなり、中間留分在庫も同260万バレル増と取り崩しの市場予想に反し積み増しとなったことから続落し、約1年2ヶ月ぶりの安値を記録し50ドル割れ目前となった。なお、同日、ロシアのプーチン大統領は最近の60ドル程度の原油価格でも経済に支障はないと語り、12月のOPEC総会に向け、サウジのファリハ・エネルギー相はナイジェリアのカチク石油相と会談し、サウジ単独の減産はない、カチク石油相

はナイジェリアの減産協定復帰の議論は時期尚早と述べた。1月限終値は前日比1.27ドル安の50.29ドル、2月限の終値は前日比1.24ドル安の50.49ドルだった。

EIAによると、11月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.2セント値下がりの1ガロン2.539ドル(76.4円/ℓ)、ディーゼルは前週比2.1セント値下がりの3.261ドル(98.1円/ℓ)となった。ガソリンは7週連続の値下がり、ディーゼルは6週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年11月18日～11月24日に休止したトッパー能力は9.0万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は364.9万klと、前週に比べ2.2万kl増加。前年に対しては0.1万klの減少。トッパー稼働率は93.2%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては0.0ポイントの減少となった。

生産は、前週に比べて灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/0.4%減、ジェット/28.6%減、灯油/36.0%増、軽油/5.6%減、A重油/16.6%減、C重油/6.8%減。今週のC重油の輸入は2.7万kl(前週比2.3万kl減)。軽油の輸出は5.9万kl(前週比3.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、ジェット、C重油で増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は94.4万kl(対前週1.2%増)と前週比で3週連続で増加となり、12週連続で100万klを下

回った。ジェット6.5万kl(対前週19.1%減)、灯油29.6万kl(対前週47.4%増)、軽油55.7万kl(対前週14.8%減)、A重油15.7万kl(対前週18.9%減)、C重油17.8万kl(対前週30.8%増)。

(単位：千KL)

	今週 (11/18～11/24)	前週 (11/11～11/17)	前週比	
ガソリン	944	933	▲ 11	(1%)
ジェット燃料	65	80	▼ -15	(-19%)
灯油	296	201	▲ 95	(47%)
軽油	557	654	▼ -97	(-15%)
A重油	157	193	▼ -36	(-19%)
C重油	178	136	▲ 42	(31%)
合計	2,197	2,197	▶ 0	(0%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月24日時点の在庫は、ガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは179.4万kl、前週差3.5万kl減。前年に対しては16.0万kl多い。

灯油は288.1万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては35.5万kl多い。

軽油は174.4万kl、前週差17.2万kl増。前年に対しては29.3万kl多い。

A重油は86.6万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては19.6万kl多い。

C重油は209.9万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては6.1万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (11/24)	前週 (11/17)	前週比	
ガソリン	1,794	1,829	▼ -35	(-2%)
ジェット燃料	1,044	990	▲ 54	(5%)
灯油	2,881	2,857	▲ 24	(1%)
軽油	1,744	1,572	▲ 172	(11%)
A重油	866	857	▲ 9	(1%)
C重油	2,099	2,079	▲ 20	(1%)
合計	10,428	10,184	▲ 244	(2.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月20日から11月26日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン116~118円台で大きく値下がり、軽油65~68円台で大きく値下がり後横ばい、灯油64~67円台で大きく値下がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114~119円台

で大きく値下がり、軽油63~69円台で大きく値下がり、灯油59~62円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106~110円台で大きく値下がり、軽油65~67円台で大きく値下がり、灯油59~64円台で大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週に続き、全油種・全取引で大きく値下がりした。

12月第1週(11月29日~12月5日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月20日~11月26日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油も2.5円の値下がり、軽油も2.5円の値下りだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.4円の値下がり、灯油も2.1円の値下がり、軽油は3.1円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが2.2円の値下がり、灯油も1.7円の値下がり、軽油も2.0円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは大きく値下がりした。

12月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/20 ~ 11/26)	前週 (11/13 ~ 11/19)	前週比
レギュラー	63.0	64.8	▼ -1.8
灯油	65.1	67.6	▼ -2.5
軽油	66.4	68.9	▼ -2.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (11/20 ~ 11/26)	前週 (11/13 ~ 11/19)	前週比
レギュラー	55.0	57.2	▼ -2.2
灯油	62.5	64.2	▼ -1.7
軽油	66.6	68.6	▼ -2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/20~11/26実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.8	▼ -2.2	▼ -2.0
灯油	▼ -2.5	▼ -1.7	▼ -2.1
軽油	▼ -2.5	▼ -2.0	▼ -2.3
A重油	▼ -2.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.0円安の153.9円、軽油も同1.7円安の133.5円、灯油は同1.3円安の96.8円(18%ベースでは22円安の1,743円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに5週連続の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりはなし、横ばいもなし、値下がり47都道府県全てだった。全国最安値は愛知県の148.4円(前週比2.3円安)、次が148.9円の神奈川県(同3.2円安)、最高値は長崎県の166.3円(同1.3円安)であった。値上がりした県はなく、横ばいの県もなく、最も値下がりしたのは4.0円安の福井県(150.0円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の値下げとなった。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートはやや円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週(12月3日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (11/26)	前週 (11/19)	前週比	直近高値
レギュラー	153.9	155.9	▼ -2.0	08/8/4 185.1
灯油	96.8	98.1	▼ -1.3	08/8/11 132.1
軽油	133.5	135.2	▼ -1.7	08/8/4 167.4

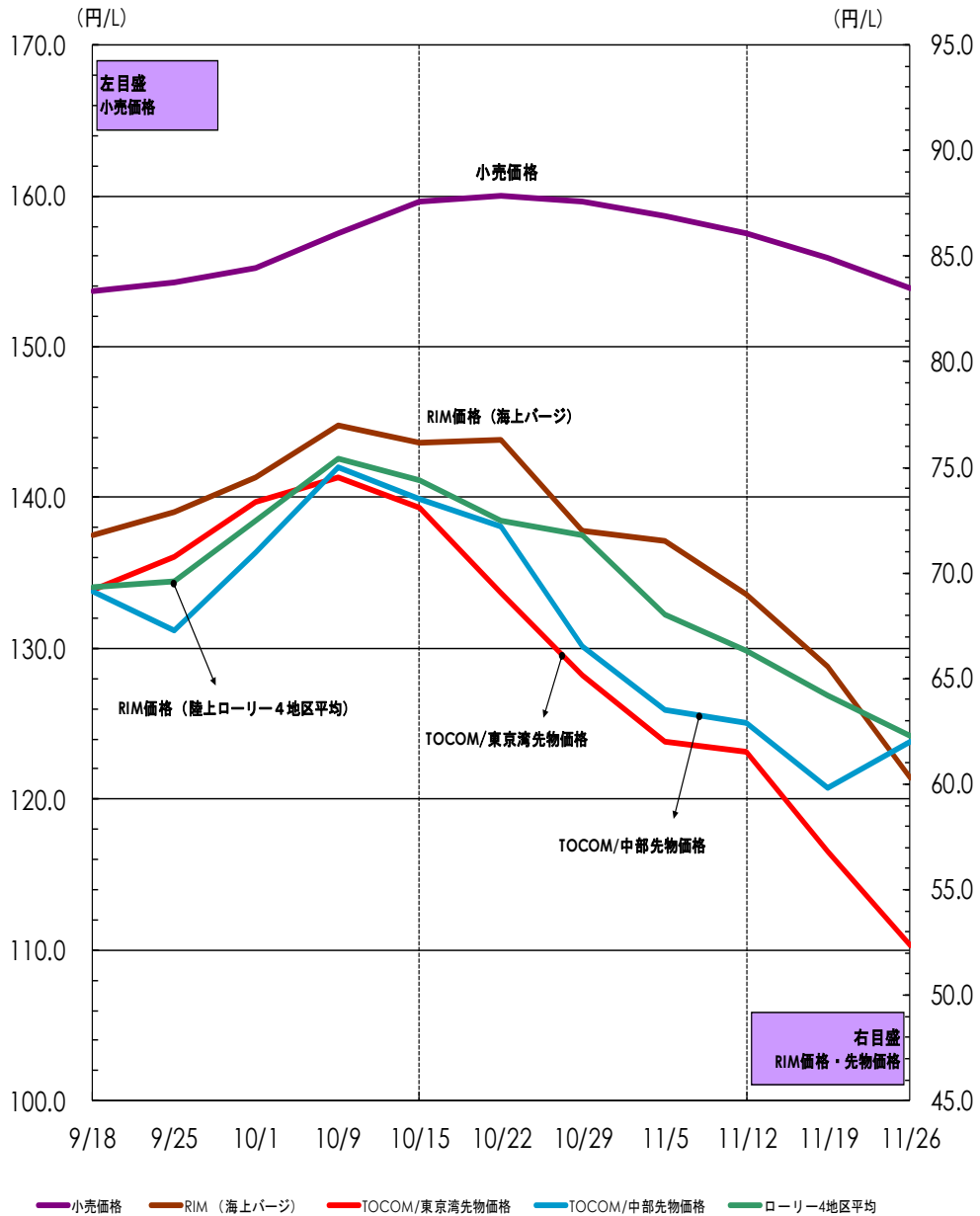
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/9/18 ~ 2018/11/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2018第34号) の公表は、12/7 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在) は、7月31日 (火) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。